

平成26年度 評価計画及び自己評価

(計画)・中間・最終)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

<p>a 学校教育目標</p>	<p>「自分を創る」</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>〈ミッション〉 (学校の使命) 小中一貫教育を通して、「自他の幸せを目指し、自立し貢献できる人間」の根っこを育てる。</p> <p>〈ビジョン〉 (将来の学校像) アメニティ環境に包まれる学校 ・行くのが楽しい学校の実現。 ・会うとうれしくなる先生の育成。 ・会うとうれしくなる仲間の構築。</p>
-----------------	----------------	------------------------------	--

<p>c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点</p>	<p>【現状(○成果●課題)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小中一貫教育を推進する組織体制が確立しており、小学校と中学校の一体的な学園運営が軌道に乗っている。</li> <li>○ 平成25年度に改訂した学校教育目標『自分を創る』を意識した自立的な教育活動が展開できるようになった。</li> <li>● 小中一貫教育校の設立当初の組織やシステムが残っており、これらの見直し及び小中一貫教育による教育活動の質的向上を図る必要がある。</li> <li>● 「ことば」「いのち」「まなび」をキーワードとして各教育活動を行ったが、特に「まなびの質の向上」では、生徒の変容をみとる取組が不十分であった。</li> <li>● 自分の気持ちを言葉で表現することやかけがえのないいのちの醸成を図ることは、本校教育の基盤として継続する必要がある。</li> </ul> <p>上記の現状より、次の4点を今年度の重点とする。</p> <p>①思考力・表現力を育む指導の改善 ②自分の思いを表現できる力の向上 ③かけがえのないいのちであることの自覚の醸成 ④体力・運動能力の向上</p>
-------------------------------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・②・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	生徒も教職員も 生きた言葉で語り 合い、触れ合う環 境を創る。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">貫</div>	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。	自治会長会、民児協、補連協等と連携し、地域と共に「あいさつのできる」警固屋っ子を育てる。	「自分を創る」の言葉のレベルが3(規律)以上を達成できる生徒の割合。	90%						
地域での児童・生徒のあいさつについて、地域住民の肯定的な評価の割合。			80%								
○生徒の「ことばの力」を高める。		朝読書、図書委員会の啓発活動等により、読書習慣の形成を図る。	1か月に1冊本を読み切る生徒の割合。	90%							
○自分の思いを表現する力を高める。		自立ノートを活用し、振り返りの欄に自分の思いを表現させる。	自立ノートに自分の気持ちを綴ることのできる生徒の割合。	85%							
**	かけがえのないいのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人がかけがえのないいのちであることを自覚できる。	道徳教育の重点目標を「生命尊重」とし、教育相談や自立ノートを効果的に活用する。	生命の尊さについての生徒の肯定的な評価。	100%						
○いじめを許さない学校風土を作る。		・教職員の日常的な生徒の実態の把握による早期発見体制の整備 ・生徒会によるいじめ撲滅に係る主体的な活動に実施。	いじめアンケートにおいて、「いじめはない」という回答。	100%							
***	自分の意見を持ち、自分の言葉で説明できる力をつけ、学びの質を高める。	○思考力、表現力を高める。	日常の授業において、生徒が自分の考えを表現する場の設定を工夫する。(授業展開モデルによる)	「基礎・基本」定着状況調査生徒質問紙の思考力に係る項目の肯定的評価の割合。	85%						
生徒の体力向上を図る。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">貫</div>			○課題のある柔軟性を向上させる。	保健体育科及び部活動の準備運動等において、柔軟性を高める運動に継続して取り組む。	長座体前屈の県平均を上回る生徒の割合。	70%					

【k:評価】  
 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100  
 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60